

しがの(農) × (福) 通信

令和2年(2020年)10月第7号

発行者:滋賀県農政水産部農政課

今回は、「しがの農×福ネットワーク」に御参加いただいている福祉事業所の取組と、子ども食堂に関わる活動の二本立てで御紹介します。

取組事例紹介①

(農) × (福) NPO 法人 縁活 おもや(栗東市霊仙寺)

○ 「おもや」ってどんなところ？

NPO 法人縁活「おもや」(代表 杉田健一さん)は、栗東市霊仙寺を中心に活動している福祉事業所(就労継続支援 B 型)です。「おもや」では、事業所でのお米や野菜、果物の栽培、事業所以外での農作業(施設外就労)、さらに飲食部門の「オモヤ☆キッチン」の運営にいたるまで、「農・食」をメインに幅広く活動しています。地域で活躍している「おもや」ですが、2011年の立ち上げ当初の利用者はたった1名でした。それが、約10年経った今、「おもや」は26名の利用者と13名のスタッフ(パートを含む)が集い、働く場所になりました。そこで、今回はコロナ禍での取組と「おもや」誕生秘話を御紹介します。

○ コロナ禍で生まれ変わる New 「オモヤ☆キッチン」!

オーガニック食材がウリの「オモヤ☆キッチン」。これまでも様々なメディアで取り上げられましたが、コロナ禍で休業を余儀なくされました。しかし、お店が休業していても、事業所での毎日の農作業は変わりません。ある時、近所の農家さんの中には、作業に没頭して昼食をとらない方も居るという話を思い出し、「しっかりと自分たちのご飯を食べよう」と新たなスローガンを杉田さんは掲げたのです。日々の農作業の中での「まかない飯」、「農家さんも食べやすいお昼ご飯」を新たにテーマに加えた「オモヤ☆キッチン」



に生まれ変わり、10月1日から営業が再開されます。自分達が普段食べているご飯を地域の皆さんにも食べてもらいたい、街の人が集う地域のコミュニティの場にしていきたいと考えています。

店舗での営業はもちろん、「おもや」自慢の自然栽培食材を使ったお弁当のテイクアウトもやっています。

○ 「おもや」誕生秘話と成長ものがたり

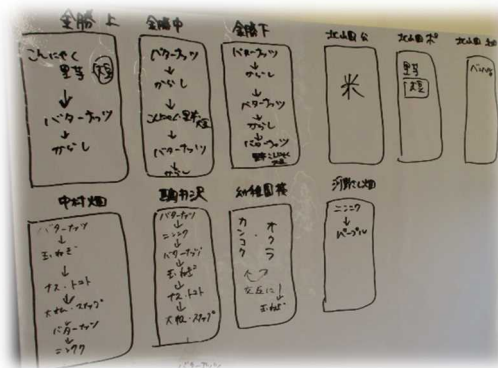
元々は福祉施設の事務員をしていた代表の杉田さん。色々な福祉現場を経験して、2009年に杉田さんの地元である栗東市でグループホーム「すうほ」を設立します。グループホームの運営にまい進していた頃、『お父さんから引き継いだ農地を使って、グループホームの人たちと農作業や地域で活動出来たら楽しいんじゃないか?』と思い、事業所「おもや」を新しく立ち上げました。



しかし、新規で立ち上げた事業所は中々利用してもらえません。そんな中、唯一の利用者は、他の事業所では就労のための作業の継続が困難な方でした。その方は、度々スタッフとの間でトラブルになりながらも「おもや」へ通い続けていましたが、ある時突然、「家に引きこもりたい」と言い通所をやめてしまいました。杉田さんはその方に「また来なくなったらおいでや」と声をかけ、見守ることにしました。それから数年経った2018年、その方の保護者から「どうしても『おもや』に行きたい、あの時は楽しかった！と言っているんです。」と連絡があり、「おもや」に帰ってきたのです。この方にとっては、「おもや」は真に「母屋」（自分の居られる場所）であったのでしょうか。その方は「おもや」の一員として今でも元気に活動されています。

「おもや」を立ち上げてから3年ほどで利用者は8名まで増えました。「また来たい」と思えるような雰囲気、利用者の気持ちを尊重し見守るスタイルを続け、設立から9年経った2020年には26名もの仲間が出来ました。

市内各地等に飛び地状態で農地を預かっている「おもや」では、その地域ごとにその場所の農家や住民の方との関係を築いていきました。ある時は、体を悪くして農地の管理が出来ない高齢者に代わって農地を管理したり、「あなたになら畑を任せたいんやけど…」とお願いをされたり、少しずつ、着実に地域で頼られる存在になっています。預かっている農地は、どこでどんなものを育てているのか、いつでも誰でも一目で分かるように、事業所で掲示されています。



● 「地域のお手伝い」から始まる農福連携 ～「おもや」の生みの親 杉田健一さんの想い～

「農を一つの手段として事業所の利用者の皆さんの“自己実現”を目指しています。結果的に農業をやっていますが、僕は、たまたまその入り口が福祉ただけです。」この想いは農福連携を行っていく上で忘れることの無いように、スタッフにも都度共有しているという杉田さん。これから農福連携に取り組もうとしている方々には、「今まで本当に農福連携やっていませんでしたか？」と聞きたいそうです。「地域の農家の『てっだいい』とかやったりしてなかったですか？それが農福連携なんです。皆さん、どこかしらで困っている人の手助けをしたりしているはず。地域に困っている人はいませんか？とコミュニティに入っていくのが第一歩やと思います。」と伝えてくれています。

■事業所概要

○ NPO 法人 縁活 おもや

〒520-3035 栗東市霊仙寺1丁目3-24

TEL:077-598-5368

FAX:077-598-5367

HP : <https://enkatsu.or.jp/>

○ オモヤ☆キッチン

TEL : 077-596-3713

Facebook : <https://m.facebook.com/omoyakitchen/>

※画像のメニューは取材当時のものです。



10/1 再オープン当日に賑わうオモヤ☆キッチン

取組事例紹介②

福 「遊べる・学べる淡海子ども食堂」にぜひ、ご参加ください！

○ 「遊べる・学べる淡海子ども食堂」の取組について

「遊べる・学べる淡海子ども食堂」は、主に地域のボランティアやNPO、企業など有志の方々により運営され、ご飯を通じて地域ぐるみで子どもを見守り育てていく垣根のない居場所です。

食堂をきっかけに様々な世代がつながり、困っている人を放っておかない、あたたかいまなざしがあふれる地域づくりを進めています。

8月末現在、県内には132か所の子ども食堂が開設されていますが、子どもたちが歩いていける範囲である小学校区に一つ以上子どもの居場所が広がるよう300か所を目指しています。



写真提供：社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会

○ 農業者の皆様の子ども食堂へのご参加をお待ちしています！

子どもたちにとって、農業を体験することや地元で採れる季節の食材を使った料理をつくり味わうことは、滋賀ならではの農産物や食文化の魅力を知る良い機会です。また、次世代を担う子どもたちとその家族にアプローチすることで、農業に関心を持つ者や将来の消費者を増やすことも期待できます。

農業者の皆様、地域の子ども食堂の運営にご参加・ご支援いただけることを心待ちにしております。

「農業で地域の子どもを応援しようプロジェクト」のご案内

補助対象：滋賀ならではの農業体験や地場産農産物の伝統料理の提供等に取り組む農業関係団体等

補助内容：子ども関係団体に農業体験等の提供に要する事業経費（上限75,000円）

※ 詳細は、事業所概要②の問い合わせ先URLよりご確認ください。

参加した子ども関係団体からの声

- ・地域の農業者の方々と繋がりを持ちたい。子ども食堂を通して地域の子たちの様子を知ってもらいたい。
- ・子どもだけでなく、運営側の若者へも農業の関心に繋がっている。

実施された農業者からの声

- ・子どもたちが米や米の食文化を知ることができる良いきっかけになった。
- ・多くの子どもに地域の食材や農業を感じてもらうことができた。繰り返し行い手法も工夫したい。

■事業所概要

①子ども食堂の開設・参加・支援などのご相談、スポンサーへの登録について

子ども食堂つながりネットワークSHIGA事務局

滋賀の縁創造実践センター 滋賀県社会福祉協議会

〒525-0072 草津市笠山七丁目8-138 TEL 077-567-3924

②「農業で地域の子どもを応援しようプロジェクト」推進事業の補助金助成について

滋賀県子ども・青少年局 子ども未来戦略室 総務・青少年係

〒520-8577 大津市京町4丁目1-1 TEL 077-528-3550 FAX 077-528-4854

URL：<http://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/koho/e-shinbun/bosyuu/311769.html>



問合せ先一覧

| | | |
|---------------------|-------------------|------------------|
| <農福連携全般に関する事> | 滋賀県農政水産部農政課 | TEL:077-528-3812 |
| <農業技術に関する事> | 滋賀県農政水産部農業経営課 | TEL:077-528-3845 |
| <障害福祉の制度に関する事> | 滋賀県健康医療福祉部障害福祉課 | TEL:077-528-3542 |
| <障害者雇用に関する事> | 滋賀県商工観光労働部労働雇用政策課 | TEL:077-528-3759 |
| <子ども食堂に関する事> | 滋賀県健康医療福祉部子ども青少年局 | TEL:077-528-3550 |
| <施設整備等の補助金に関する事> | 近畿農政局農村振興部農村計画課 | TEL:075-414-9051 |
| <農作業受委託のマッチングに関する事> | | |

NPO 法人滋賀県社会就労事業振興センター TEL:077-566-8266 E-mail:info@hataraku-shiga.net

「しがの農×福ネットワーク」に御賛同いただける個人・団体等を募集しています！

「しがの農×福ネットワーク」は、「農福連携」に関心のある個人、グループ、民間団体、企業、大学、研究機関、行政機関などが、それぞれが持つ農福連携に関する情報の発信や啓発、意見交換、参加者どうしの農福連携の取組の支援などを行うことにより、滋賀の農福連携の取組を推進するネットワークです。

御賛同いただける場合は、下記の県 HP 掲載の参加申込書に必要事項を記入いただき、E-mail、FAXまたは郵送にて農政課まで送付ください。

「しがの農福通信」では、御参加いただいている皆様の取組を中心に御紹介していきます。多くの方の御参加をお待ちしております。

[「しがの農×福ネットワーク」](#) | 滋賀県ホームページ（滋賀県HPへリンク）

URL: <http://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/nougyou/seisangizyutsu/304789.html>